

平成 27 年度 第 2 回 新潟市北区郷土博物館協議会 会議概要

日 時： 平成 28 年 3 月 29 日（火曜日） 15 時 ～ 17 時

会 場： 新潟市北区郷土博物館 集会室

出席委員： 9 名

阿部紀夫、伊藤裕美子、小黒忠、小島勝治、里村洋子、杉本耕一、田村祐一、
寺山知子、本間修一

欠席委員： 1 名

鈴木 梢

傍 聴 者： なし

事 務 局： （博物館）宮崎芳春館長、神田直子学芸員、塩原賢信主査、
曾部珠世非常勤嘱託職員（歴史）

資 料： 当日配布＜ 1 ＞＜ 2 ＞

会議概要

1 開会

司会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・塩原賢信主査

ただいまから平成 28 年度第 2 回新潟市北区郷土博物館協議会を開催します。

本日は委員 9 名が出席され、会議は成立しています。傍聴はありません。

2 杉本耕一協議会長あいさつ

本日は、お忙しい中をお集まりいただきましてありがとうございます。

新しい常設展が開始されてから 11 か月が経ちました。委員のみなさまから活発なご意見を頂戴し、これからますます充実した博物館になるよう、支援していきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひ致します。

3 宮崎館長あいさつ

みなさまには、ご多用のところお集まりいただきありがとうございます。

本日は、平成 27 年度第 2 回目、年に 2 回の会議ですので今年度最後の会議です。委員のみなさまからたくさんのご意見を聞かせていただき有意義な会議にしたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。

地域課長がご挨拶させていただき予定でしたが、急用のため欠席させていただきますので、私からご挨拶させていただきました。

司会（塩原主査）

では、これより議事進行を杉本会長にお願いします。

4 議事

（杉本会長） では早速、議事に入りたいと思います。

まずは会議次第の議事(1)「平成27年度 新潟市北区郷土博物館事業報告」を、博物館からお願いします。

(1) 平成26年度 新潟市北区郷土博物館事業報告について

(神田学芸員) 平成27年度新潟市北区郷土博物館事業について、<資料1>に基づいて報告。

<質疑応答>

(杉本会長) 今年度の事業報告について、質問やご意見はありますか。

(伊藤委員) 資料P.8の2-(7)にある「ふるさと学習」について、利用学校数や顔ぶれなどについて、ここ数年の変化などもあわせて聞かせて下さい。

(宮崎館長) 例年と同じです。今回、岡方中学校1年生が来ているのは、岡方地域の歴史を知りたいということに対応したもので、質問に答えるという形式でした。中学校の「ふるさと学習」としての利用は殆どなく、恒例化しているものではありません。

(寺山副会長) 博物館の「ふるさと学習」対応については、学校への働きかけを行っていますか。北地区の学校の利用がないようなので、北地区にも利用していただきたいと思うのですが。

(宮崎館長) 今年度は、まだ常設展が暫定的な状態という理由から、特にPRは行いませんでした。今後は、北区の校長会での説明や地域コーディネーターへの働きかけなどを行って、学校に対し、積極的な活用を呼びかけたいと思っています。

(伊藤委員) p.7の2-(3)「中学校職場体験学習の受け入れ」について。今年度は1校だけですが、なにか理由があるのでしょうか。

(宮崎館長) 他校からも依頼があったのですが、当館の事情で対応できない期間にあたり、お断りせざるを得ませんでした。受け入れの間は、必ず職員がついて対応しなければならないため、いつでも受け入れ可能というわけにもいきません。また、体験の内容についても、貴重な資料を扱う職場においては非常に限られているわけです。やっていたら環境整備作業などは、たしかに当館で必要な業務なのですが、そのような体験だけで体験学習といえるのかという疑問もわれわれにはあります。難しいところです。

(阿部委員) p.9の3-(1)と5について。限られた予算と人員のなかで大変な業務であることはよく理解しているつもりですが、民俗資料の整理作業の今年度の進捗状況を教えてください。

(宮崎館長) 今年度寄贈を受けた民俗資料については、清掃、くん蒸まで整理作業がすすんでいます。「整理が終わる」というのは、資料を清掃して燻蒸して、調査を行って台帳登録をするというところまでの作業を言います。そこまでやって初めて博物館の収蔵資料となるわけですが、今年度に受け入れた資料についてはその整理作業の途中の段階というわけです。また、それ以前に受け入れた資料については、4000点のうち、パソコンで検索できるよう台帳入力されているのが、2500点程度というのが実情です。

(阿部委員) 今年度の主要事業として、一昨年秋まで常設展示されていた弦巻松蔭の没後20年の記念展が2会期にわたって開催されましたが、これまでにない内容の濃い充実した展覧会で、意義あるものだったと思います。展覧会にあわせ発刊された図録も大変に充実した内容で、貴重な研究資料とあると思いました。

(杉本会長) 私も同意見です。展示の構成もよかったし、図録もよく出来ていましたね。また、会場での解説も大変にわかりやすく、納得できる内容でした。

(神田学芸員) 私自身、「書」を専門に勉強してきたわけでもなく、生前の松蔭をよく存じ上げているわけでもないし、資料も乏しいなかで、どうやって「松蔭」像を展覧会として表現するか、たいへん難しい作業でした。「松蔭」をまっさらな状態に還元し、先入観なく私自身の眼で捉えようと心がけました。

(小黒委員) 今回の展覧会は、大変な苦勞をされて開催していただいたわけですが、博物館には松蔭先生が集めたコレクションもあります。500年以上も前の硯であったり、ミニチュアであったり、さまざまな種類のものがたくさんあるわけですが、これも、なんとか展示して、みなさんに見てもらえるようにしてもらえるとありがたいです。

(神田学芸員) 松蔭のコレクションは、文房具から、民芸品、ミニチュアにいたるまで6400点以上あります。これを綿密に調査して整理するには各種それぞれの分野の専門的知識を有する人材が必要です。それを以てしても何年もかかる作業だと思います。しかし、博物館の収蔵資料としてこのコレクションを展示・活用するには、調査・整理作業のみならず、「意味づける」という仕事をしなければならないわけです。最終的には、松蔭とコレクションとの関連づけ、ひとつの「コレクション」としての意味づけまで行わねばならないことは承知していますが、一朝一夕にはいかないことをご了解いただければと思います。

(宮崎館長) 松蔭に関係する作品やコレクションは、今後も機会をとらえて紹介していきたいと思っています。

(杉本会長) それでは、常設展リニューアルにかかわる「区づくり事業」としての事業報告をお願いします。

(宮崎館長) まずは、<資料1>の表紙にありますように、「新潟市北区の勤皇の志士 遠

藤七郎」のDVDを制作しました。こちらは、4月から、常設展示室の映像コーナーで見ることができるようにしますので、ご覧いただきたいと思います。2つめは、現在常設に展示している「ホンリョウブネ」の製作です。ホンリョウブネはかつて福島潟周辺で魚を捕るために使用されていた舟ですが、このたび所蔵資料をもとに新たに製作しました。3つめは、常設展示「阿賀北の大地と人々の暮らし」のための『学習ノート』の作成です。博物館の常設展示の学習に、学校で大いに活用していただきたいと思っています。

(杉本会長) 『学習ノート』はどのように配布するのですか。

(宮崎館長) 今回は300部しか印刷しないので、とりあえずは、北区内の小・中学校と地域コーディネーターに配布しようと考えています。

(杉本会長) 博物館の来館者にはではなく、学校に配布するのですか。将来的には増刷して博物館に来た人が使えるようにしてほしいですね。

(小島委員) 郷土学習の副読本として活用できる可能性を持っていると思います。すばらしいですね。「ふるさと学習」は小学3年生から始まりますが、『学習ノート』は、何年生を対象としているのですか。

(神田学芸員) 「歴史」の勉強は小学6年生からということなので、この『学習ノート』は小学6年生～中学生を対象にしています。実際には、5年生をもカバーできるようなレベルを想定しています。

(田村委員) 副読本ということだと、生徒一人一人に配布されるものです。あるいはクラスの人数分を確保するという方法もあります。それが難しければ、とりあえずは図書館に配置するというのが一番よいのではないのでしょうか。興味ある生徒は図書館で調べますから、確実に有効に活用されます。まずはそこから始めるのがよいと思います。

(伊藤委員) クラス人数分の確保が必要だということであれば、基幹図書館である学校図書館支援センターに置いてもらうのがよいと思います。学校は、そこから地域資料などを借りて利用できます。

(杉本会長) 学習ノートという性質上、一人一人に渡ることをイメージしていたのですがそこまでは難しいわけですね。博物館に来て、見て、学習するという性質上、最終的には、それを目指していただきたいですね。

(寺山副会長) 博物館の職員から、学校で授業をしていただくというのも、地域の歴史をきるきっかけになってよいのではないかと思います。

(田村委員) 今、小中学校では「郷土愛」を育む「地域学習プログラム」に取り組んで

います。どういう方法でどういう内容で行うかは、それぞれの学校の考え方によりますが、『学習ノート』は、このプログラムにも応用・活用できるものだと思います。

(伊藤委員) 常設展示のボランティアガイドな、学校の教材としてだけでなく、どさまざまな場で活用できると思います。

(宮崎館長) 常設展のボランティアガイドのテキストとしても使いたいと思っています。北宝隊にも大いに活用していただきたいと思っています。

(2) 平成 28 年度 新潟市北区郷土博物館事業計画について

(神田学芸員) 平成 28 年度新潟市北区郷土博物館事業について、<資料 1>に基づいて説明。

(宮崎館長) <資料 2>に基づいて、「区づくり事業」の計画について説明。

<質疑応答>

(杉本会長) 来年度の事業報計画、なにか質問やご意見はありますか。

(里村委員) 常設展・拡大企画コーナー「昭和のくらし」は、テーマを変えてシリーズとして毎年行っていくのでしょうか。

(宮崎館長) 拡大企画は、企画展の開催のない期間（ホール展示がない期間）に、常設展示を拡大して行うもので、その時々、テーマを設定してやります。当館の常設展示は規模が小さいので、そこで言い尽くせないものを、テーマを定めてとりあげるというものです。

(里村委員) たいへんよい企画だと思います。ぜひ継続して行ってください。

(阿部委員) 講演会の予定が書かれてないようですが、開催予定はないのでしょうか。今年度開催された「北区の大地―その地下を探る―」は大変よい講演会でした。広報期間が短かったにもかかわらず大勢参加されていましたよね。このように、常設展のテーマに関連した講演会を定期的に行ってはいかがでしょうか。

(宮崎館長) 講演会について資料では特別設定していませんが、2-(1)の常設展示ボランティアガイド養成講座を予定しています。ここで、北宝隊、一般公募の市民を中心に、講演会や解説会、勉強会など、さまざまなプログラムを実施します。

(阿部委員) 「こども博物館」について。北区の夏休みのこども交流事業が来年度は3年目で最終年を迎えます。これは旧北地区のこどもたちを旧豊栄にバスできてもらおうと

いう計画です。遊水館（プール）にばかり人気が集まっていましたが、博物館にも足を運んでもらうため、この時期にあわせて「こども博物館」を開催していただけるとありがたいです。

また、自治協議会では、旧豊栄から旧北地区へ歴史見学ツアーの計画も持ち上がっています。このような企画に、博物館からの協力をお願いしたいと思っていますところです。

（宮崎館長） ご協力できることは、ご協力していきたいと思えます。ただ、「こども博物館」というのは、単発の企画ではないのです。メンバーを春に募集して、月1回くらいの割合で一年にわたって開催するものです。メンバーが、1年の間にさまざまなプログラムで見学、体験しながら北区の歴史と文化を学んでいくわけですね。ご理解いただければと思います。

（伊藤委員） ボランティアガイド養成講座は、毎年行われるのでしょうか。例えば翌年には新人育成と、2年生のためのステップアップ講座など別にあるといいと思えます。また、新人や2年生ボランティアとの交流会などもあるとお互いに刺激をうけることができると効果的であると思えます。

（宮崎館長） 単年度のみではなく、継続をめざしています。どのような形で進めていくかは、検討中です。

（杉本会長） 常設展示室における展示についての意見・感想です。この常設展示については、われわれ協議会でも何度も意見交換して最終的には従来通りのR壁を残し、それを使った展示構成になったわけですね。それには予算面の理由が大きかったわけですね、そのことは十分に理解していますが、将来的にR壁を取り払って有効展示スペースの拡大をはかってもらいたいと希望します。また、現状でも、置型の展示ケースを利用して、少しでもお多くの資料を展示する工夫をしていただければと思います。R壁は有効展示壁面があまりにも少ないので、寂しい気がします。

（宮崎館長） 有効展示スペースが小さいというのはわたくしどもも痛感しています。しかし一方で、R壁の裏側は大事な収納スペースです。展示ケースや展示台、図書資料などを収納するスペースはどうしても必要なのです。小さな施設なので、なかなかうまくいかない。

（小島委員） 博物館は少ない人数で、たくさんの仕事があつて大変だと思えます。そういうことなら、地域の大学と連携して、博物館に興味をもっている学生から協力を得るといったことは可能なのだろうか、といったことを考えているのですが。

（本間委員） それができればすばらしいことなのですが、実際に大学生から協力を得ようとするのが難しいですよ。興味をもって、継続的に参加してくれる学生はなかなかいません。博物館と北宝隊で「北区のお宝ガイドマップ」を作成した時に、大学生に協力を依頼

したのですが、参加者がだんだん減っていきました。

(田村委員) 今、大学は地域の学校との連携を進め、学生がどんどん、小中学校の活動にも出てきています。必要なニーズがあれば、大学に相談すれば、学生を派遣してくれます。そういう意味で、博物館でもニーズがあれば、その内容によってはもしかすると大学生の力を借りることも可能かもしれません。ただし、博物館が求めているニーズと合うかどうかはわかりませんが。

(伊藤委員) ボランティアガイドに大学生が参加するというのもいいのではないのでしょうか。

(杉本会長) 実際のところ、博物館に興味を持っている若い人は少ないです。まずは、博物館に興味をもってもらうことが先だと思います。博物館の存在すらわからない。周知が課題だと思います。

(宮崎館長) 現実では、学生を募集して、学生に教えて、という手間と効果とを勘案すると難しいですね。博物館に関係する専門の勉強をしてきている学芸員の資格取得をめざす学生に教えるだけで精一杯。それが実情です。

(伊藤委員) 文化財説明板があっても、その場所がどこにあるのか、どう行ったらよいか、わかりにくいことが多いのですが、わかりやすく表示してほしいです。

(宮崎館長) 誘導までは、なかなかむずかしい現状です。

(阿部委員) 協議会の開催時期についてですが、どの時期がよいのか、もう少し検討した方がよいのかなという気がします。予算要求の前に開催するのがよいと思うのですが、ご検討願います。

(宮崎館長) というと10月より前ということでしょうか。

(塩原主査) 通常ですと、第1回目を夏に行うことが多いのですが。

(杉本会長) 開催時期については、博物館の方で検討していただければと思います。

(3) その他

(宮崎館長) 大変長い間、お世話になりました。再任用の期間を含め博物館勤務は34年間となりました。何が忙しいのかよくわからないまま、ずっと走り続けてきたように思います。一番大きな出来事はやはり新潟市との合併でした。そして、「新潟市豊栄博物館」となり、「新潟市北区郷土博物館」に名称を替え、それにふさわしい個性を出していくこと

が求められています。施設の老朽化という問題もこれから大きな課題となるかと思えます。さまざまな問題がありますが、協議会委員のみなさまからは引き続き、強力なご支援をお願いしたいと思えます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。長い間、ほんとうにお世話になりました。ありがとうございました。

(杉本会長) では、議事を終了します。

5 閉会